# 東直子さんの本

今回は，歌人であり，作家でもある東直子さんの本をご紹介します。

1 冊目は，『千年ごはん』です。

この本は，日々の“食”を見つめた食べ物エッセイです。その季節ならではの旬な食べ物から，普段食卓に並ぶお料理まで。日常を彩る“食”にまつわるエピソードが，短歌と共に紹介されています。炭火で焼いたアツアツの秋刀魚に，すだちを絞った瞬間の「じゅっ」という音や，くたくたに疲れた体を癒す，飴色に澄んだオニオンスープの暖かさ…本当においしいものは，お腹だけではなく，五感の隅々まで満たしてくれることに気づかせてくれます。エピソード事に添えられた短歌は，まるで締めの一皿のように「ごちそうさま」の幸福感を味合わせてくれること間違いなしです。

2 冊目は，小説『とりつくしま』です。

この物語の主人公達は，命が尽きてしまったものの，この世に未練を残した人々。そんな彼らの前に「とりつくしま係」なるものが現れ囁きます。未練があるなら，なにかこの世の「モノ」にとりつきませんか？と。とりつけるものは，命を持たない非生命体のみ。彼らは思い思いの「モノ」にとりつき，大切な人の今を見守ります。母親は，投手である息子のロージンバッグに。妻は，夫のマグカップに。男は憧れの女性のネームプレートに…。声をかけることは叶いませんが，切なくも優しい眼差しで残された人々の側に寄り添います。例え目には見えなくても，私たちは，自分ではない誰かの思いと一緒に生きているのかもしれません。そんな幻想に，不思議と勇気づけられる短編集です。

3 冊目は，絵本『ぷうちゃんのちいさいマル』です。

ぷうちゃんは赤い髪の元気な女の子。ある日，お散歩に出かけたぷうちゃんは，転んだ拍子に，名前の“ぷ”の“ちいさいマル”を落としてしまいます。ちいさいマルをなくしてしまったぷうちゃんは，なんと“ふうちゃん”に！「ふうちゃんってなんだかへん。ちからがぬけていくみたい」ちいさいマルを探すふうちゃんですが，代わりに見つけたのは“ちいさいテンテン”で…？言葉が持つ音の響きが，愛嬌たっぷりに表現されています。ユニークな展開が微笑ましい，声に出して読みたい絵本です。

今回紹介した本の作者・東直子さんを講師にお迎えし，来月 11 月 17 日 日曜日に，講演会「声に出して楽しむ言葉」を開催します。日本語や短歌の魅力についてのお話や，ご自身の著作『とりつくしま』の朗読を行います。

会場は坂出市民ふれあい会館 2 階の多目的ホールで，定員は 50 名です。

図書館カウンターまたはＦＡＸで申込受付中です。詳細については，大橋記念図書館までお問い合わせください。電話番号は 0877-45-6677，ＦＡＸ番号は 0877-45-6678 です。ご参加をお待ちしております。